

**研究課題：**特発性側弯症における凸側と凹側の椎体椎弓根径に差はあるか？

**1. 研究の目的**

特発性側弯症は変形が高度になると手術療法が必要になります。その際、椎弓根にスクリューを刺入しますが、凸側と凹側の椎弓根径に差がある可能性があります。安全にスクリューを刺入するためには椎弓根の形態を明らかにする必要があります。本研究の目的は、特発性側弯症の術前CTを用いて、凸側と凹側における椎弓根の形態を明らかにすることです。

**2. 研究の方法**

2015年1月1日から2023年10月31日までに当センターで特発性側弯症に対し矯正固定術が施行された患者が対象となります。診療録から後方視的研究を行います。

**3. 研究期間**

2023年11月（倫理委員会で承認を得られた日）から2026年1月31日まで。

**4. 研究に用いる資料・情報の種類**

診療録から、術前の単純レントゲン写真やCTを用いた画像所見の情報を調べまとめます。

**5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表**

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

**6. 研究組織**

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：整形外科 科長 平良勝章

研究分担者：整形外科 医長 町田真理

## 7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年2月28日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構  
埼玉県立小児医療センター  
医事担当（代表 048-601-2200）